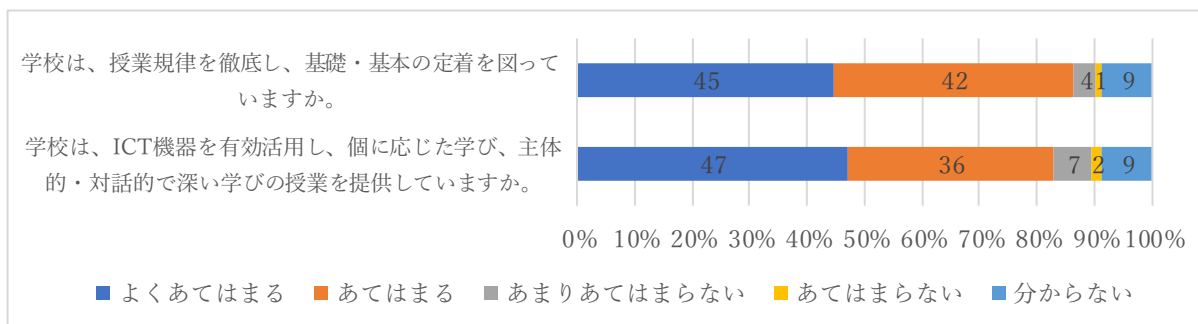


学校名：中央区立銀座中学校 所在地：中央区銀座8-19-15
 校長名：平松 功治
 生徒数：372名 学級数：15学級（特別支援学級4） 教員数：27名 職員数：28名

1 重点目標の達成状況及び取組状況

重点目標1 相手の話を聴き、心と頭でよく考え自分の意見や考えを相手に伝える力をもつ 〈保護者アンケートより抜粋〉

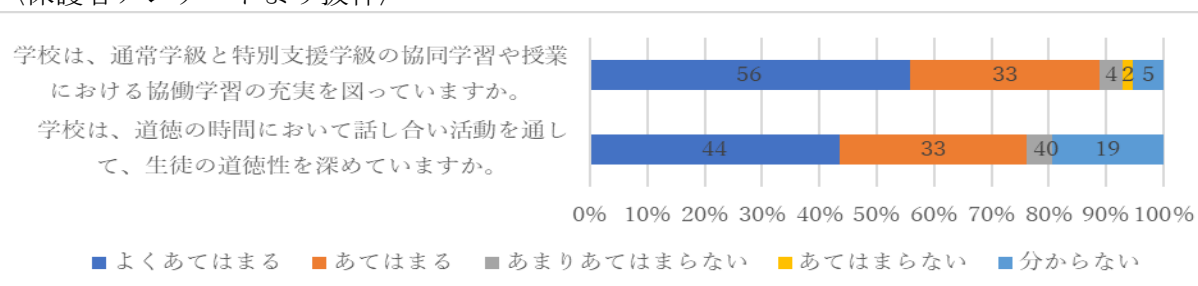


保護者アンケートから、「授業規律の徹底」、「基礎・基本の徹底」、「ICT機器の有効活用」、「主体的・対話的で深い学びの授業の提供」のすべての項目で肯定的回答が80%を超えた。

特に、「授業規律の徹底」、「基礎・基本の徹底」について、生徒アンケートの肯定的評価が90%を超えており、年度当初の会議や校内研修会を通じて教員が共通理解を図り、実践していることによるものと考えられる。一方で、「ICT機器の有効活用」「主体的・対話的で深い学びの授業の提供」に関しては、さらに検討と改善が必要である。GIGAスクール構想推進により、授業では当たり前のようにICT機器を使用するようになったが、アナログとデジタルのバランスを取りつつ、効果的な活用法について研修を深めていきたい。

重点目標2 豊かな人間性、相手の多様性を受容する共生の心をもつ

〈保護者アンケートより抜粋〉

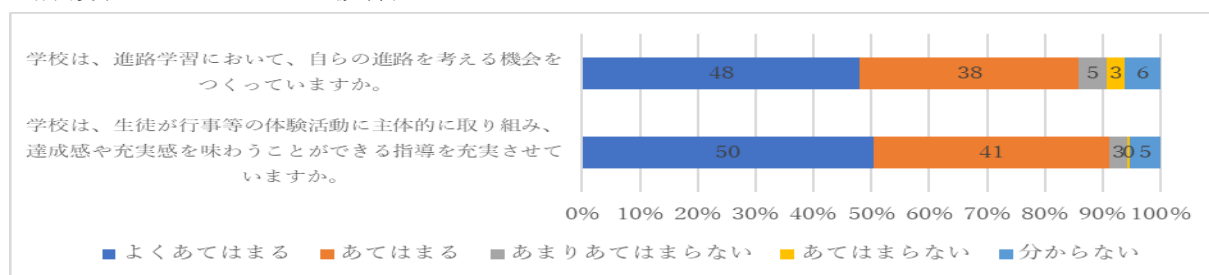


保護者アンケートから、「通常学級と特別支援学級の協同学習」「授業における協働学習」「生徒が主体的に生徒会活動や係活動に関わる」「奉仕の精神や集団への帰属意識を高める」について、肯定的回答は80%を超えた。一方で、「人権尊重教育」「道徳教育」については、80%を下回った。

前者については、通常学級と特別支援学級が連携した協同学習への取組、タブレット端末を効果的に活用した協働的な学びを実践した成果であると考えられる。

後者は、コロナ禍で道徳授業を公開できなかったことが、「分からない」という回答に繋がったと考えられる。来年度は、「命と心の授業」や「道徳授業地区公開講座」を通して保護者、地域と連携し、豊かな道徳性を養う学習機会を充実させていく。

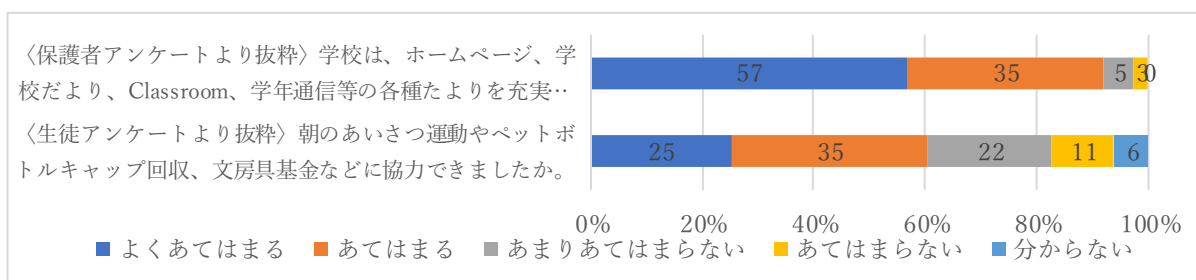
重点目標3 あきらめない強い意志と身体、挨拶等の基本的な生活習慣や社会性をもつ (保護者アンケートより抜粋)



保護者アンケートから、「生徒が行事等の体験活動に主体的に取り組む」「達成感や充実感を味わうことができる指導」「進路学習において自らの進路を考える」のすべての項目について、肯定的回答が80%を超えた。

コロナ禍の中で、様々な工夫をしながら教育活動を行い、生徒が主体的に取り組む機会を設けた成果だと考えられる。進路学習においては、職業調べ、職業講演会、上級学校調べ等を通じて将来の進路を考える機会を設け、自己実現に向けた意欲を高めるキャリア教育の推進を図った。それに加えて来年度は、職場訪問や職場体験学習を通して、勤労の大切さと社会に貢献する態度を養い、将来の生き方について考えを深め、望ましい勤労観・職業観を高める指導の充実を図る。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況



保護者アンケートから、「ホームページ、学校だより、Classroom、学年通信等の各種たよりの充実」については、肯定的な回答が90%を超えた。一方で、生徒アンケートの「あいさつ運動やペットボトルキャップ回収等のボランティア活用への協力」については、80%を大きく下回った。

前者は、重点目標以外の取組「学校情報の発信」と関わり、今年度から学校だよりと学年通信を紙面配布だけでなくClassroomで配信を行うようになった。また、授業の課題やお知らせについても配信しており、来年度以降もタブレットを有効活用し、情報発信を拡充させていく。

後者は、重点目標以外の取組「ボランティア活動」と関わり、コロナ禍で人と関わる活動が制限されているため、肯定的な回答が上がらない現実が、昨年度同様に続いた。生徒の様子を見てみるとボランティアマインドが無いわけではないので、コロナ禍でも自己のもつボランティア精神を自覚できる活動を模索していく。そして、ボランティア運動の取組を特別活動の年間計画に位置付け実践することを通して、集団に貢献する意欲や奉仕の心を育成する。

3 今後の改善方策

- ・タブレット端末を効果的に活用した学びの個別最適化を実現するための教員研修
- ・豊かな心、温かな人間関係を育む人権教育の組織的な推進
- ・ボランティア精神を自覚できる計画的な教育活動の推進